



かんがえる
かんばる
がさえる
がさえる

時津町立鳴鼓小学校
学校だより R6年度第15号

令和7年2月4日
文責：校長 今井大輔

最重要課題は、確かな学力の育成

子供たちが将来社会を生き抜く上で、「学力」は不可欠な力となります。私たち鳴鼓小学校では、この「学力」を、単なる知識の詰め込みではなく、「自ら学び、考え、成長する力」だと捉えています。教職員一同、子供たちが「学ぶ力」を身につけ、未来を切り拓くことができるよう、日々教育活動に尽力しています。

12月に実施したCRT（標準学力調査）の結果が出ましたので、ご報告いたします。

国語科：1年生～3年生、5年生は全国平均を大きく上回り、4年生は平均を少し上回る結果でした。6年生は平均まであと一歩でした。

算数科：1年生～4年生は全国平均を大きく上回り、5年生は平均を少し上回る結果でした。6年生は平均と同程度でした。

理科：3年生は全国平均を大きく上回りましたが、4年生は平均と同程度、5年生と6年生は平均を下回る結果となりました。

英語科：5年生は全国平均を大幅に上回り、6年生は平均を若干上回る結果でした。

今回のCRTの結果は、あくまでも学校全体の平均値です。一人一人の子供たちには、伸びた力や、これから伸ばすべき力が必ずあります。結果を分析し、一人一人に合ったフォローアップ問題に取り組み、次年度に向けて、着実な学力向上を目指します。

後日、ご家庭にもCRTの結果をお届けします。ぜひお子様と一緒にご覧いただき、今後の学習にご活用ください。

「学力」は、テストの点数だけで測れるものではありません。「学ぶ力」は、子供たちが未来を生き抜くための重要な力となります。今回のCRTの結果も、子どもたちの成長を測る一つの指標として捉え、今後も教職員一同、子供たちの「学ぶ力」を育んで参ります。

カナリーステージナイン（高学年）

1月22日（水）に時津町が誇るイベント、カナリーステージナインに5・6年生が参加しました。会場は、本物の演奏や舞台が楽しめるカナリーホールです。今回は、瑞宝太鼓の皆さんによる和太鼓演奏でした。音と振動、心に響く和太鼓の迫力！和太鼓の音と振動が、心に響く迫力満点の演奏に、観客一同、心が震えました。

漸進打波の瑞宝太鼓障がいをもっている方々で結成された瑞宝太鼓の皆さんの演奏は、愚直さや懸命さが伝わるものでした。

今回のステージで、全学年の演目が終了しました。このような貴重な機会をいただいたことに心より感謝申し上げます。



教師力を高めるために

教員は、子供たちの成長を願い、日々研鑽を積んでいます。これは、教員としての使命であると同時に、公務員としての義務でもあります。

今年度は、教員のスキルアップを目指し、2学期と3学期に「互見授業週間」を設けました。教員同士がテーマを決めて授業を参観し合い、互いの良い点や改善点を意見交換することで、学びを深めることを目的としています。

通常、同僚の授業を参観する機会は限られています。しかし、この取組を通して、互いの授業や学級経営の工夫を共有し、視野を広げることができました。また、子供たちにとっても、普段見慣れない先生が授業を参観に来ることは、新鮮な経験になったようです。

今後も、教員一同、様々な研修機会を設け、授業力の向上に努めて参ります。そして、子供たちがより質の高い教育を受けられるよう、学んだことを学校現場で活かして参ります。

つぶやき

左底地区の子ども会では、例年、節分の豆まきを行って。今年は、2月2日（日）に左底の上地区、3日（月）に中と下地区が豆まきを実施した。



豆まきをして回る家は、事前に申し込みのあった家庭である。子供たちは、「丹波の国のうー」と口上を述べた後、「鬼は外！福は内！」と豆をまく。豆をまいてもらった家の方は、どこにもこやかな表情で「ありがとうね。」と言ってくださる。見ていてとても微笑ましい風景である。

昨年は、私の家は申し込みをして、受け入れる側だった。しかし、今年は、地区の役員をしていて、今年度もあり、子供たちと共に回る側で参加した。回る側で初めて知ったことが多くあった。まずは、入念な事前準備である。申し込みのあった家をゼンリン地図で確認し、コースを決定する。そして、子どもたちの割り振りをする。さらに、まく豆が散らからないように、袋詰めをする。持ち手付きの箱作りや口上の準備や指導など、お世話役の方に頭の下がる思いであった。豆まきをしてもらった家にも、福豆まくることを願っている。